

令和4年度

群馬県公立高等学校

入学者選抜学力検査問題

国語

(後期選抜)

注意事項

- 1 「始めなさい。」の指示があるまで、問題用紙を開かないこと。
- 2 解答は、全て、解答用紙に記入すること。
- 3 「やめなさい。」の指示があったら、直ちに筆記用具を置き、問題用紙と解答用紙の両方を机の上に置くこと。
- 4 問題は、1ページから10ページまであります。
- 5 解答用紙の、の欄には何も書かないこと。

— 次の文章を読んで、後の(一)～(五)の問いに答えなさい。

畑や花壇の土は、地表面の近くが乾燥していても、地中の深くでは、水を含んでいます。そのため、「根は、その水を求めて、下に向かって伸びていくのではないか」と考えることはできません。

I、地球上には重力があり、根には重力の方向に伸びるという性質があります。ですから、根が水を求めて下に伸びていることは、重力と切り離して証明しにくいのです。

II、「根が水を求めて下に向かって伸びていく」とは、これまでではつきりといわれてきませんでした。しかし、近年は、「根が水を求めて下に向かって伸びていく」ことが、はつきりと認められるようになりました。^Aその根拠は、主に、次の三つに整理できます。

一つ目は、根が水のある方向に向かって伸びる現象がよく見られることです。これは、多くの人に何となく感じられてきたものです。たとえば、土の中の配水管などの割れ目から水が漏れていると、割れ目に向かって多くの根が伸びる現象が観察されてきました。

二つ目は、シロイヌナズナという植物に、突然変異で重力を感じなくなった個体が生まれたことです。この個体の根は、重力を感じることはありません。ところが、その根は土の中深くに多くある水を求めて下に伸びるのです。

三つ目は、宇宙ステーションでの実験です。宇宙ステーションの中では、重力ははたらいっていません。それにもかかわらず、シロイヌナズナをはじめ、レタスやヒヤクニチソウなどのタネが発芽すると、根は下に伸びたのです。このとき、発芽した芽生えの下には、水を含んだロック

ウールが置かれていました。

ロックウールというのは、岩石を加工して、水を含むようにしたものです。根は、無重力の中に置かれた水を含んだロックウールの中へ伸びたのです。地球上では、重力があるために見えにくい「根は、水を求めて伸びる」という性質が、無重力の宇宙で、はつきりと示されたのです。

このように、根には、水を求めて伸びる力が備わっているのです。この力があるからこそ、根は、土の中を下に向かって、「深く」伸びます。土の表面は乾燥していても、地面の下には、深くなればなるほど水分があり、その水を求めて、植物たちは長く根を伸ばすのです。

この力は、同じ種類の植物が湿った土で育った場合と、乾燥した土で育った場合の根の成長を比較すると、よくわかります。植物の地上部は、湿った土で育ったほうが乾燥した土の場合よりも、植物の成長ははるかに上まわります。そのため、隠れて見えない地下部の根の成長も、湿った土のほうが乾燥した土の場合よりも、よいように想像されます。

^Bところが、根の成長はそうではありません。実際に掘って確かめてみると、湿った土で育った根はそれほど伸びていないのに比べて、乾燥した土で育った根は、湿った土で育った根に比べて、ずっときめ細かく深く張りめぐらされています。乾燥した土地で育つ植物の根は、水を求めたくましく伸びるのです。

根は、水が少なく不足しているという逆境の中で、水を探し求めるように、また、少しでも水をくまなく吸収できるように、きめ細かく深くに張りめぐらせるのです。水が不足するという条件の中で、根の「根性」を感じさせるような伸び方です。

「いろいろな困難や苦勞にくじけない性質」に、「根性」という語が当てられます。この語の語源が、文字の並びの通りに「根の性質」なのかどうかは定かではありません。でも、根が水の不足する環境の中で水を探し求めて伸びる性質は、「根性」という語にふさわしいものです。

(田中修『植物のいのち』による)

(一) 文中 I、II に当てはまる語の組み合わせとして、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

ア I しかし II あるいは

イ I たとえば II しかも

ウ I ところが II そのため

エ I なぜなら II したがって

(二) 文中A——「その根拠は、主に、次の三つに整理できます」とありますが、その根拠について説明したものととして、次のア～エから適切なものを全て選びなさい。

ア 根拠の一つ目では、根が水のある方向へ伸びる現象について述べている。

イ 根拠の二つ目では、土と水がないと植物は成長できないことを述べている。

ウ 根拠の三つ目では、根が伸びるには地球の重力が大きく影響すること述べている。

エ 三つに整理された根拠は、根には水を求めて伸びる力があることを示すものとなっている。

(三) 文中B——「ところが、根の成長はそうではありません」とありますが、筆者は、植物の地上部の成長と地下部の根の成長はどのように異なるかと述べていますか。植物の地上部の成長と地下部の根の成長がそれぞれどのようなか、違いが分かるように、書きなさい。

(四) 本文の中で、筆者は、「根性」という言葉の意味と「根の性質」を重ねて捉えています。筆者が「根性」という語に重なると考えているのは「根の性質」のどのような点ですか、重なる点に触れながら書きなさい。

(五) 本文全体の構成や表現についての説明として、次のア～エから適切なものを二つ選びなさい。

ア 根拠を順序立てて説明することで、文章の説得力を高めている。

イ 反対意見に対して一つ一つ反論し、自分の主張を正当化している。

ウ 難解な専門用語を多用することで、格調の高い文章となっている。

エ 複数のデータを詳細に比較した上で、最後に問題提起をしている。

オ 客観的事実や現象だけでなく、筆者の主観的な見方も示されている。

二 次の記事を読んで、後の(一)～(五)の問いに答えなさい。

「昔き、俺、金守と仲悪かったのよ。なのに一走と二走になっちまってき。」

突然なんだよ、と思う。金守さん……兄の現役時代、リレーで一走を走っていた人だ。何度も会ったことがあるわけじゃないけど、兄と仲がいいのは知っている。確か宇宙工学とか、そっち系で、将来はNASAだからJAXAだかを目指してるって。ロケットが好きなんだ。星好きの兄の同類。元々仲が悪かったなんて話は、初めて聞いたけど。「でもあるときふっと、パズルのピースみたいに綺麗にハマった瞬間があったんだよね。」

「ハマった瞬間？」

脳裏を雨夜の顔がよぎる。俺は頭を振ってそれを追い出す。

「一走のおもしろきは、ロケットを飛ばすことだなんて言ってたな。」

兄は懐かしそうに笑ってるけど、俺はまったく意味がわからない。

「つまり、あいつにとっては二走がロケットだったわけよ。俺に初めて綺麗にバトンが渡ったとき、ああ打ち上げ成功だっと思っただらしい。あいつがロケット馬鹿だったことも、そのとき初めて知った。そこからぐんぐんタイムが伸びたんだから、それこそ馬鹿みたいな話だけだ。」

「……だっけって言いたいわけ？」

ロケットの打ち上げに際し、カウントダウン・ゼロの瞬間に派手に火を噴くブースターは、ロケットという特大質量を遥か宇宙へ飛ばすために必要となる莫大な推進力を補助するための装置——以前金守さんが言っていたっけな。その多くは燃料を使い果たした後、本体から切り離され投棄される。どこまでも本命の前座ってワケだ。

「リレーってき、不思議な競技だよな。」

人の話を聞いているのか聞いていないのか、兄はのんきな口調で話を続けた。

「四人のベストタイムの合計より、リレーのタイムの方がよかつたりする。つまり、バトンで縮んでるわけだ。個人競技が多い陸上の中でき、そういうチームワークが結果に直結する競技は珍しいよな。」

俺は鼻を鳴らす。

「純粹な走力の勝負じゃないって意味じゃ、邪道でしょ。」

「まあ、陸上ってそういうところあるからな。己の身一つ、その力を限界まで振り絞って戦うだけに、一切言い訳がきかない。サーフェスのコンディションとか、風とかはあるだろうけど。」

「でもリレーは、バトンっていう言い訳が入る余地がある。それがつまんねえ。」

俺は吐き捨てるように言う。なんでこんなにリレーをけなしたいんだろうな。

「かもな。でもき、俺はサトセンが今のおまえらにリレーやらせたい気持ち、なんとなくわかるよ。」

と、兄は笑った。サトセンが、リレーをやらせたい理由？

「ただバトンを繋げばいいだけじゃないんだ。」

真っ暗だけど、兄の目はうっすら見える。大島の星空が映り込んで、兄の目の中にプラネタリウムがあるみたいだ。ずっと星を追いかけている兄の目だから、そう見えるのだろうか。俺の目には兄が映っている。今も昔も……。酒井に言われたことをふっと思い出し、頭を振る。

「綺麗に、スムーズに、無駄なく渡そうと思ったら、結局お互いのことちゃんと知るしかない。そいつのくせとか、性格とか、その日の調子とか……そういうの全部わかって、初めて完璧なバトンパスができるんだ。そいつのこと、なんも知らなくて、本気のバトンなんか渡せねえよ。チームメイトのこと知らずに、本物のリレーなんかできねえよ。」

「穏やかだけど、強い調子だった。あの頃を思い出したように、遠くを見ている目だった。だけど、俺を見ている目だ。俺の中の、何かを見透かしている目だ。」

Ⅱ エースの前座。そんな気持ちで一走を走ってたら、きつと雨夜というロケットは飛ばない。頭のどこかじゃわかってる。けど、それがなんだって言うんだ。

C 「いいよ別に。本物のリレーなんか……。」

「そうか？」

なぜか兄はニコニコして言った。顔は見えなかったけど、ニコニコしていると思った。

(天沢夏月『ヨンケイ!!』による。)

(注) 雨夜……エース区間の二走を走るメンバー。 サーフエス……走行面

サトセン……陸上部の顧問。 酒井……陸上部の部員。

(一) 文中□に当てはまる語句として、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

- ア リレーはタイム イ リレーはバズル
ウ 一走はブースター エ 二走はロケット

(二) 文中A——「鼻を鳴らす」という表現は、「俺」のどのような様子を表していますか、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

- ア 得意に思っている様子。 イ 不満を感じている様子。
ウ 心が落ち着いている様子。 エ 相手の機嫌をうかがう様子。

(三) 文中B——「ただバトンを繋げばいいだけじゃないんだ」とありますが、「兄」が「俺」に伝えたい内容として、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

- ア バトンに込められた思いに気づいてこそ、感動的なリレーになる。
イ 夢や希望を仲間と共有できるかどうかで、リレーの価値が決まる。
ウ バトンをスムーズに渡す美しさこそが、本物のリレーの良さである。
エ 本物のリレーをするには、お互いのことを深く理解する必要がある。

(四) 文中I——「どこまでも本命の前座ってワケだ」と、Ⅱ——「エースの前座。そんな気持ちで一走を走ってたら、きつと雨夜というロケットは飛ばない」という表現から、「俺」は自分が一走を走ること、どのように受け止めていると考えられますか、まとめて書きなさい。

(五) 文中C——「いいよ別に。本物のリレーなんか……」に込められた「俺」の心情を説明したものと、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

- ア 兄の過去と自分を結び付け、前向きな気持ちを抱いている。
イ 兄の助言を理解しながらも、素直に認められない部分がある。
ウ 仲間よりも、自分が速く走ることだけに集中したい思いがある。
エ 自分の気持ちを分かってももらえず、兄に対して嫌気がさしている。

三 次の文章を読んで、後の(一)、(二)の問いに答えなさい。

太田左衛門大夫持資は上杉宣政の長臣なり。鷹狩に出て雨に

逢ひ、ある小屋に入りて蓑を借らんといふに、若き女の何とも

物をば言はずして、山吹の花一枝折りて出しければ、「花を求むる

にあらず。」とて怒りて帰りしに、これを聞きし人の、「それは、

七重八重花は咲けども山吹のみの一つだになきぞ悲しき

といふ古歌のこころなるべし。」といふ。持資驚きて、それより

歌に志を寄せけり。

『常山紀談』による。

(注) 太田左衛門大夫持資、上杉宣政……いずれも室町時代の人。

長臣……重要な職務にある家臣。

鷹狩……鷹を使って行う狩り。

蓑……わらなどを編んで作った雨具。

(一) 文中——「言はず」を現代仮名遣いで書きなさい。ただし、全て平仮名で書くこと。

(二) 次の会話文は、春輝さんたちが、本文について話し合ったときの

会話の一部です。これを読んで、後の①、②の問いに答えなさい。

春輝さん 「持資」が「若き女」に対して怒ったのはどうして

だろう。

夏斗さん それは、「持資」が蓑を借りようとしたのに、「若き

女」が何も答えずに Ⅰ からでしょう。

秋世さん 確かにこの行動は不思議だよ。これってどういうこと

なのかな。

冬香さん それが「古歌のこころ」と関係してくるわけですよ。

夏斗さん 本文の中に出てくる和歌は、昔の人がよんだもので、

多くの花を咲かせるけれど実を付けないという山吹の

特徴を踏まえているんだよ。

秋世さん そうか。「みの一つだになき」という言葉があるけれど、

これには、「Ⅱ」という意味と「蓑が一つも

ない」という二つの意味が込められているということ

だね。

冬香さん そういうことになるね。だから「若き女」の行動には

意味があつたんだ。

春輝さん 最後の一文に「持資驚きて」とあるから、「持資」は

その意味を知って本当に驚いたんだろうね。

冬香さん 調べてみると、古文に出てくる「驚く」は、「はっと

気づく」という意味で使われることも多いんだって。

それを考えると、Ⅲ ということになるよ。

春輝さん なるほど、そうだね。「持資」の気持ちが変わってくる

気がするよ。

① 会話文中Ⅰ、Ⅱに当てはまる内容を、本文から考えて、それぞれ現代語で書きなさい。

② 会話文中Ⅲに当てはまる内容として、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

ア 「若き女」がよんだ和歌に感動し、古い歌が持つ趣深さとおもしろさに気づいた

イ 「若き女」とのやり取りを通して、自分の教養のなさを知るとともに和歌の奥深さに気づいた

ウ 「若き女」の優しい気持ちに触れることで、一緒に和歌を作ってみたいという自分の恋心に気づいた

エ 「若き女」の行動が自分の真意を探るためであつたと分かり、人を見かけで判断すべきでないと気づいた

四 次の文章は、漢文を書き下し文に書き改めたもので、陳の国を攻め取ろう

と考えた楚の国の莊王が、使者に陳の国の様子を視察させ、その結果を報告させた場面のもので、これを読んで、後の(一)～(三)の問いに答えなさい。

使者曰はく、「陳は伐つべからざるなり。」と。莊王曰はく、

「何の故ぞ。」と。対へて曰はく、「其の城郭は高く、溝壑は深く、蓄積は多く、其の国は寧し。」と。王曰はく、「陳伐つべき

なり。夫れ陳は小国なり。而るに蓄積多し。蓄積多ければ、

則ち賦斂重く、賦斂重ければ、則ち民上を怨む。城郭高く、

溝壑深ければ、則ち民力罷れん。」と。兵を興して之を伐ち、

遂に陳を取る。

(『説苑』による。)

(注) 城郭……城壁。

蓄積……備蓄。

夫れ……そもそも。

上……陳の王のこと。

溝壑……城の堀。

寧し……穏やかである。

賦斂……租税。

罷……「疲」に同じ。

(一) 文中「兵を興して之を伐ち」は、「興兵伐之」を書き下し文

に書き改めたものです。「兵を興して之を伐ち」という読み方になるように、「興兵伐之」に返り点を書きなさい。

(二) 文中「其の城郭は高く、溝壑は深く、蓄積は多く」について、

次の表は、使者の報告と、それに対する莊王の考えを整理したものです。①、②に当てはまる内容を、それぞれ現代語で簡潔に書きなさい。

使者の報告		莊王の考え	
結	論	結	論
「陳は伐つべからざるなり」		「陳は伐つべきなり」	
「其の城郭は高く、溝壑は深く」		①	
「蓄積は多く」		②	
		租税が重いはずであり、	
		(そうであるならば)	

(三) 本文で述べられている内容についての説明として、次のア～エから

最も適切なものを選びなさい。

ア 使者は、平和を維持するために戦いは避けるべきだと莊王を説得した。

イ 莊王は、使者の報告にうそが含まれることを鋭く見抜くことができた。

ウ 使者は、莊王の判断に納得がいかず、陳への攻撃には参加しなかった。

エ 莊王は、陳が小国であることを踏まえ、陳の状況を論理的に推測した。

五 次の(一)～(三)の問いに答えなさい。

(一) 次の①～④の——の平仮名の部分を漢字で書きなさい。

① 釣り糸をた^らす。

② もうすぐ日^がく^れる。

③ し^きゆ^う、連^絡してほ^しい。

④ けん^{ぱい}機でき^つぶを購^入する。

(二) 次の①～④の——の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

① 進^行が滞^る。

② 目^標を掲^げる。

③ 材^料を吟^味する。

④ 若^干の余^裕がある。

(三) 次の漢字の部首名を書きなさい。また、この漢字を楷書で書いた場合の総画数を書きなさい。

権

六 次の会話文は、竹志さんたちが、中学校の図書委員会で、校内の

読書活動の推進について話し合いをしたときの会話の一部です。これを
読んで、後の(一)、(二)の問いに答えなさい。

竹志さん ここ数年のデータを見てみると、最近、学校の図書館の

貸し出し冊数が減っているみたいだよ。

小梅さん 「読書離れ」などと言われることもあるし、みんな本を

読まなくなっているのかもしれないね。

松子さん 確かにそうかもしれないね。でも、図書館では借りずに、

本を書店やインターネットで買って読んでいる人もいると

思うな。

小梅さん 実際はそうなのかもしれないね。でも、図書館にも良い本

がたくさんあるから、みんなに手に取ってほしいな。

松子さん 本を読む人にも読まない人にも、読書をするこの楽しさ

や意義を改めて伝えたい気がするね。まずは、^I全校生徒に

アンケートをして、みんなの読書の実態を把握すると

いうのはどうかな。

竹志さん なるほど、いいかもしれないね。あわせて、読書をする

ことの楽しさや良さについても、みんなに考えてもらいたい

気がするな。

小梅さん それなら、^{II}読書をするこの良いところを図書委員会で

考えて、アンケートの中でいくつか示してみるのはどう

だろう。そのうえで、一人一人に自分の考えに近いものを

選んでもらえば、読書のきっかけにもなるだろうし、今後の

図書委員会の活動の参考にもなると思うよ。

(一) 会話文中I―について、松子さんは、読書の実態を把握するため

の質問をいくつか作成しましたが、次の質問①、②については、図書
委員会での検討を踏まえ、修正することになりました。質問①、②は、

どのような点を修正したと考えられますか。質問の(修正前)と

(修正後)を比較し、質問①、②の修正した点について、後のア～オ

から最も適切なものをそれぞれ選びなさい。

質問①

(修正前) あなたは、最近、何冊本を読みましたか。

(修正後) あなたは、九月の一月間に何冊本を読みましたか。

質問②

(修正前) あなたは、本を読む場合に、学校の図書館で本を借り

たり書店で本を購入したりしますか。

(修正後) あなたは、本を読む場合に、書店で本を購入しますか。

ア 答えを一方に誘導する可能性があった点。

イ 受け取り方に幅が生まれる語を使っていた点。

ウ 一つの質問の中で二つの事柄を聞いていた点。

エ 質問する事柄が調査の目的と合っていないかった点。

オ 専門的な用語が多くて意味が分かりにくかった点。

(二) 会話文中Ⅱ―について、次のA～Cは、竹志さんたちがアンケートの中で示した、読書をする事の良いところとして考えられる事柄の一部です。A～Cの中から、読書をする事の良いところとして、あなたの考えに最も近いものを一つ選び、あなたがそのように考える理由を、自分の経験を含めて、百四十字以上、百八十字以内で書きなさい。なお、選んだ記号に○を付けること。

- | | |
|---|------------------|
| A | 豊かな言葉や表現を学べるところ。 |
| B | 想像力や空想力を養えるところ。 |
| C | 内容を把握する力が付くところ。 |

大問 (配点)										一					二			三		四			五			六																																																																																																																																																																																					
(21)										(18)			(12)		(10)			(20)			(19)																																																																																																																																																																																										
(一)										(四)			(三)		(二)			(一)			(三)			(二)			(一)																																																																																																																																																																																				
ウ										ア、エ			イ		エ			イ			ウ			イ			オ			イ																																																																																																																																																																																	
<p>(例) 植物の地上部は、湿った土で育ったほうが、乾燥した土の場合よりもよく成長するが、植物の地下部の根は、乾燥した土で育ったほうが、湿った土の場合よりもきめ細かく深く張りめぐらされる。</p> <p>(例) 水が不足しているという逆境の中でも、くじけずに、水を探し求めるように伸びる点。</p>										<p>(例) 自分が二走のエースを引き立てるために走るように納得いかないが、一方で、自分が真剣にリレーに取り組まなければエースを生かすことができないことも分かっている。</p>			<p>(例) 山吹の花の枝を差し出した</p>		<p>(例) 実が一つもない</p>			<p>(例) 民衆は王をうらんでいる。</p>			<p>(例) 民衆は疲れている。</p>			<p>(例) 私、豊かな言葉や表現を学べるところが</p>			<p>(例) A</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>私</td><td>は</td><td>、</td><td>豊</td><td>か</td><td>な</td><td>言</td><td>葉</td><td>や</td><td>表</td><td>現</td><td>を</td><td>学</td><td>べ</td><td>る</td><td>と</td><td>こ</td><td>ろ</td><td>が</td> </tr> <tr> <td>読</td><td>書</td><td>の</td><td>良</td><td>さ</td><td>だ</td><td>と</td><td>思</td><td>い</td><td>ま</td><td>す</td><td>。自</td><td>分</td><td>自</td><td>身</td><td>が</td><td>使</td><td>う</td><td>言</td> </tr> <tr> <td>葉</td><td>は</td><td>、</td><td>本</td><td>を</td><td>読</td><td>む</td><td>こ</td><td>と</td><td>で</td><td>増</td><td>え</td><td>て</td><td>い</td><td>く</td><td>と</td><td>思</td><td>う</td><td>か</td> </tr> <tr> <td>です</td><td>。本</td><td>を</td><td>読</td><td>んで</td><td>い</td><td>る</td><td>と</td><td>、</td><td>作</td><td>者</td><td>特</td><td>有</td><td>の</td><td>興</td><td>味</td><td>深</td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>い</td><td>表</td><td>現</td><td>に</td><td>出</td><td>会</td><td>う</td><td>こ</td><td>と</td><td>も</td><td>あ</td><td>り</td><td>、</td><td>私</td><td>は</td><td>な</td><td>る</td><td>べ</td><td>く</td> </tr> <tr> <td>れ</td><td>ら</td><td>の</td><td>言</td><td>葉</td><td>を</td><td>書</td><td>き</td><td>留</td><td>め</td><td>て</td><td>い</td><td>ま</td><td>す</td><td>。小</td><td>説</td><td>を</td><td>読</td><td>む</td> </tr> <tr> <td>こ</td><td>と</td><td>で</td><td>心</td><td>情</td><td>を</td><td>表</td><td>す</td><td>言</td><td>葉</td><td>を</td><td>知</td><td>っ</td><td>た</td><td>り</td><td>、</td><td>専</td><td>門</td><td>的</td> </tr> <tr> <td>本</td><td>を</td><td>通</td><td>し</td><td>て</td><td>難</td><td>し</td><td>い</td><td>言</td><td>葉</td><td>を</td><td>知</td><td>っ</td><td>た</td><td>り</td><td>、</td><td>専</td><td>門</td><td>的</td> </tr> <tr> <td>分</td><td>の</td><td>世</td><td>界</td><td>が</td><td>よ</td><td>り</td><td>広</td><td>が</td><td>る</td><td>よ</td><td>う</td><td>に</td><td>感</td><td>じ</td><td>ら</td><td>れ</td><td>ま</td><td>す</td> </tr> </table>										私	は	、	豊	か	な	言	葉	や	表	現	を	学	べ	る	と	こ	ろ	が	読	書	の	良	さ	だ	と	思	い	ま	す	。自	分	自	身	が	使	う	言	葉	は	、	本	を	読	む	こ	と	で	増	え	て	い	く	と	思	う	か	です	。本	を	読	んで	い	る	と	、	作	者	特	有	の	興	味	深			い	表	現	に	出	会	う	こ	と	も	あ	り	、	私	は	な	る	べ	く	れ	ら	の	言	葉	を	書	き	留	め	て	い	ま	す	。小	説	を	読	む	こ	と	で	心	情	を	表	す	言	葉	を	知	っ	た	り	、	専	門	的	本	を	通	し	て	難	し	い	言	葉	を	知	っ	た	り	、	専	門	的	分	の	世	界	が	よ	り	広	が	る	よ	う	に	感	じ	ら	れ	ま	す
私	は	、	豊	か	な	言	葉	や	表	現	を	学	べ	る	と	こ	ろ	が																																																																																																																																																																																													
読	書	の	良	さ	だ	と	思	い	ま	す	。自	分	自	身	が	使	う	言																																																																																																																																																																																													
葉	は	、	本	を	読	む	こ	と	で	増	え	て	い	く	と	思	う	か																																																																																																																																																																																													
です	。本	を	読	んで	い	る	と	、	作	者	特	有	の	興	味	深																																																																																																																																																																																															
い	表	現	に	出	会	う	こ	と	も	あ	り	、	私	は	な	る	べ	く																																																																																																																																																																																													
れ	ら	の	言	葉	を	書	き	留	め	て	い	ま	す	。小	説	を	読	む																																																																																																																																																																																													
こ	と	で	心	情	を	表	す	言	葉	を	知	っ	た	り	、	専	門	的																																																																																																																																																																																													
本	を	通	し	て	難	し	い	言	葉	を	知	っ	た	り	、	専	門	的																																																																																																																																																																																													
分	の	世	界	が	よ	り	広	が	る	よ	う	に	感	じ	ら	れ	ま	す																																																																																																																																																																																													
<p>(例) 質問①</p> <p>きへん</p>										<p>総画面数</p> <p>十五(画)</p>			<p>質問②</p> <p>ウ</p>			<p>① 垂(らす)</p> <p>② 暮(れる)</p> <p>③ 至急</p> <p>④ 券売</p>			<p>① ととこお(る)</p> <p>② かか(げる)</p> <p>③ ぎんみ</p> <p>④ じゃっかん</p>			<p>① エ</p> <p>②</p>			<p>① I</p> <p>②</p>			<p>① いわず</p> <p>②</p>			<p>①</p> <p>②</p>			<p>①</p> <p>②</p>																																																																																																																																																																													